

## 平成 26 年度第 1 回科学委員会議事要旨

**議事 1 科学委員会のこれまでの経緯等について**

(資料 1 を用いて説明)屋久島世界遺産地域科学委員会のこれまでの経緯等について説明。意見や議論はなし。

**議事 2 科学委員会の今後における検討課題について**

(資料 2 を用いて説明) 今後における検討課題を 4 点挙げた。1 点目が自然の適正な利用。2 点目が調査研究・モニタリング。3 点目がヤクシカ対策。4 点目が外来種(移入種)対策。また、委員の見直し等も合わせて検討していきたいと考えている。

自然の適正な利用について。

- ・根本的なデータが少な過ぎる。科学的な知見を集積していく必要がある。
- ・何らかの形でワーキンググループのようなものがあるのもいいのではないか  
⇒ワーキンググループにどのようなミッションを与えるのかということが、科学委員会の中でまだ十分な合意が成立していない。
- ・科学委員会の下で作業部会をつくり、その中で行政、地域の方々も含め議論する方がより透明性が高い。
- ・科学委員会の意見を参考に地元が決定する場が増えるとよい。
- ・屋久島の地域連絡会議は行政機関の会議であり、他の世界遺産地域のように地域の民間団体が入っていない。
- ・観光のあり方に関して世界遺産地域の外まで科学委員会がどこまで関与できるのか、関与した方がいいのか、それ自体も議論する必要がある。  
⇒科学委員会は、世界遺産地域について検討するのを主な任務としつつ、その関連で必要に応じて外まで考えていくということではないか。

その他

- ・モニタリングの内容について助言をしていくのは、科学委員会として非常に重要。
- ・ヤクシカに関しては世界遺産地域の中だけでの管理というのは不可能で、外まで考えなければいけないということで動いている。
- ・世界遺産地域の拡張は、今後における検討課題に入れるべき。

**議事 3 地域管理計画の実施状況について**

(資料 3 を用いて説明)。意見や議論はなし。

**議事 4 モニタリング調査について**

(資料 4 を用いて予定等を説明)。今年度の実施予定は、継続的なものが多くなっている。平成 26 年度に実施している主なモニタリング調査等の概要については資料 4 別紙 1 の通り。森林生態系に関するモニタリングについて。(資料 4 別紙 2 を用いて説明)平成 26 年度屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査は、(1)屋久島西部等地域の垂直方向の植生モニタリング調査。(2)ヤクシカ生育状況調査。(3)アブラギリの既往試験地の追跡および新規調査の実施。(4)縄文杉ケーブルリング等の現状把握および手直し。(5)遺伝子かく乱の基礎調査。

- ・アブラギリについて、除草剤の樹幹注入をしていただきたい。除草剤の樹幹注入は環境負荷も非常に少ないので、早急に作業方法を確立して遺産地域に入り込んでいるアブラギリ対策に役立てるような研究成果を出していただきたい。

- ・小笠原のアカギの駆除ですでに除草剤を使って、注入の仕方もスタンダードなものが決められていて、大変効果的な結果を得ている。大変有望な方法ではないか。
- 利用状況のモニタリングについて。(資料4別紙3を用いて説明) 調査項目や調査方法が詳細に定められていない。同じ方法によるモニタリング継続が困難な状況となっており、モニタリングの実実施計画の策定が必要であると考えている。
- ・屋久島に初めて来た人か、何回か来ている人かということと、もう一回来たいと思うか、思わない場合は屋久島の何が嫌と思うのか、その辺を知りたい。検討頂きたい。

#### 議事5 ヤクシカ・ワーキンググループについて

- (資料5を用いて説明)。目標頭数については、地域に応じた指標や目標を検討し、客観的に評価を行うことが必要。地域別のヤクシカ対策については、地域によってその地区ごとの植生等への影響度合い、または復元状況等を評価しながら今後のシカ捕獲対策を検討することが極めて重要等。
- ・食品衛生法の解体施設の基準をクリアした店がオープンした。解体した肉が売れる状況になった。うまく連携しつつ有効活用を図っていけるようになればいいと思っている。
  - ・残さをどう処理するかという問題は、前日行われたワーキンググループでも十分議論がされていない。十分に検討する必要がある。発酵減量法が有効かもしれない。
  - ・社会科学の専門の方で、獣害問題、野生動物管理問題について造詣の深い方を何らかの形で加えた方がより有効な対策の検討ができるのではないかと。ガバナンスのあり方を考えられる人を入れた方がいい。
  - ・商品化を図ること以上に、自家消費の文化を何とか残していく啓蒙も重要。

#### 議事6 山岳部における利用の検討状況について

- (資料6を用いて説明) 山岳部の利用のあり方検討会ということで、地域連絡会議の下に作業部会をつくった。検討事項については短期的なものの中長期的なもの2つある。短期的なものは縄文杉周辺の再整備。中長期的な課題については、適正利用とその管理のあり方として、山岳部をどうするかという話が大事だと考えている。
- ・透明性や継続性をどう担保するか、科学者の協力をどう得ていくか等の仕組みづくりは重要。
  - ・屋久島の山岳部の利用全体に関する基本的なコンセプトが必要。
  - ・中長期的な利用のあり方を考えるのは科学委員会として必要。
  - ・適正な利用についての考え方の素材みたいなものを社会科学の委員の方から用意いただき、議論する段階に来ている。
  - ・利害関係のない第三者の学術的な知見の下に、屋久島の山岳部はこうあるべきだという意見は必要。
  - ・適正な利用については、今後社会科学的な考え方を取り入れながら、モニタリングのデータもきちんと踏まえ引き続き検討していく。

#### 議題7 エコパークの拡張登録申請について

- (資料7を用いて説明) 屋久島・口永良部島ユネスコエコパークの拡張登録申請に関して説明。平成27年2月までに本申請を作成、提出し、その可否が審査される予定。
- ・移行地域に関しては、屋久島町の全課を上げて取り組んでいただきたい。
  - ・ジオパークも検討して欲しい。
  - ・屋久島の長期的なビジョンと関わるが、世界遺産地域が北東方向に伸びている愛子岳の辺りは、将来的展望として海岸まで自然の景観でつなぐことが可能。視野に入れてエコパークの地域設定を考えて頂きたい。